

マーケットの動き (2022年2月21日～2月25日)

先週の為替市場は、米ドルは対円で上昇（円安）しました。ウクライナ情勢の緊迫化を背景としたリスク回避の動きから、週の前半は低リスク通貨とされる円の買いが優勢となりました。週末にかけては、米国金利の上昇を受けて、日米金利差の拡大を意識した米ドルの買い戻しが活発になりました。ユーロは、対円・対米ドルともに下落しました。

投資環境見通し (2022年2月)

円に対して、米ドル、ユーロともに緩やかに上昇

米ドル：金融政策正常化の加速に対する警戒感が残るものの、FRB（米国連邦準備制度理事会）は景気に配慮しながら進めていくとみられることから、米ドルは円に対して当面は方向感に欠ける動きとなり、次第に政策対応や景気動向を織り込みつつ緩やかに上昇するとみえています。

ユーロ：ユーロ圏ではECB（欧州中央銀行）による緩和的な金融政策を背景に、景気は持ち直すともみえています。ユーロは円に対して緩やかに上昇するとみられますが、今後のウクライナ情勢次第では変動率が高まる可能性があります。

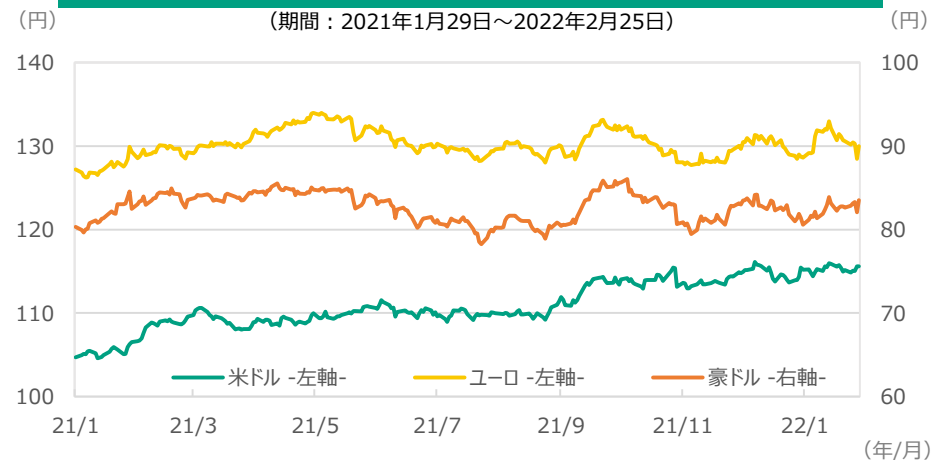
	2月25日	変動幅 (円)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	115.58	0.44	1.64	5.48	9.32
ユーロ/円	129.98	▲0.62	1.51	0.59	0.08

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

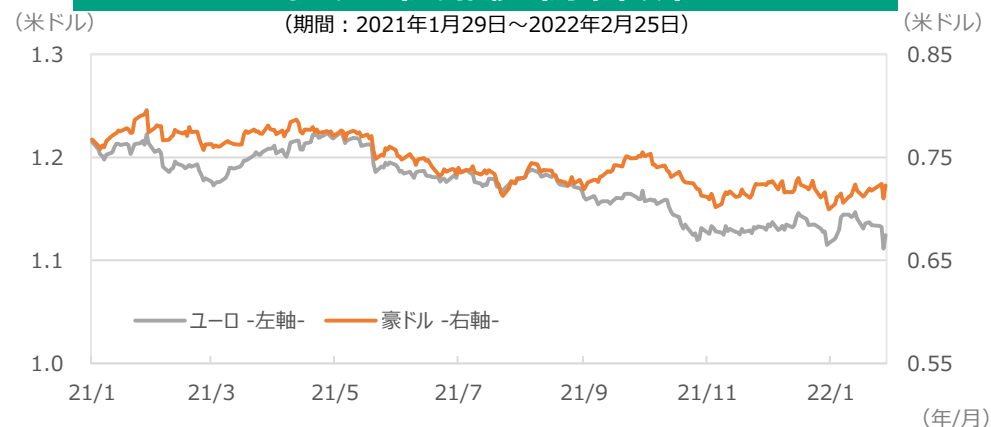
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202202_outlook.pdf

為替レートの推移 (対日本円)



為替レートの推移 (対米ドル)



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>